

飯田・リニア駅前広場プラットフォーム キックオフフォーラム
リニア駅前広場から広がる可能性
～ともに考える広場活用～

日時：令和 6 年 10 月 31 日（木）午後 6 時～午後 8 時 30 分
場所：産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」A 棟ホール

次 第

第1部 午後 6 時～午後 7 時 20 分

1. 事務連絡、開会挨拶、飯田・リニア駅前広場の整備方針
2. トークセッション

10 分間休憩

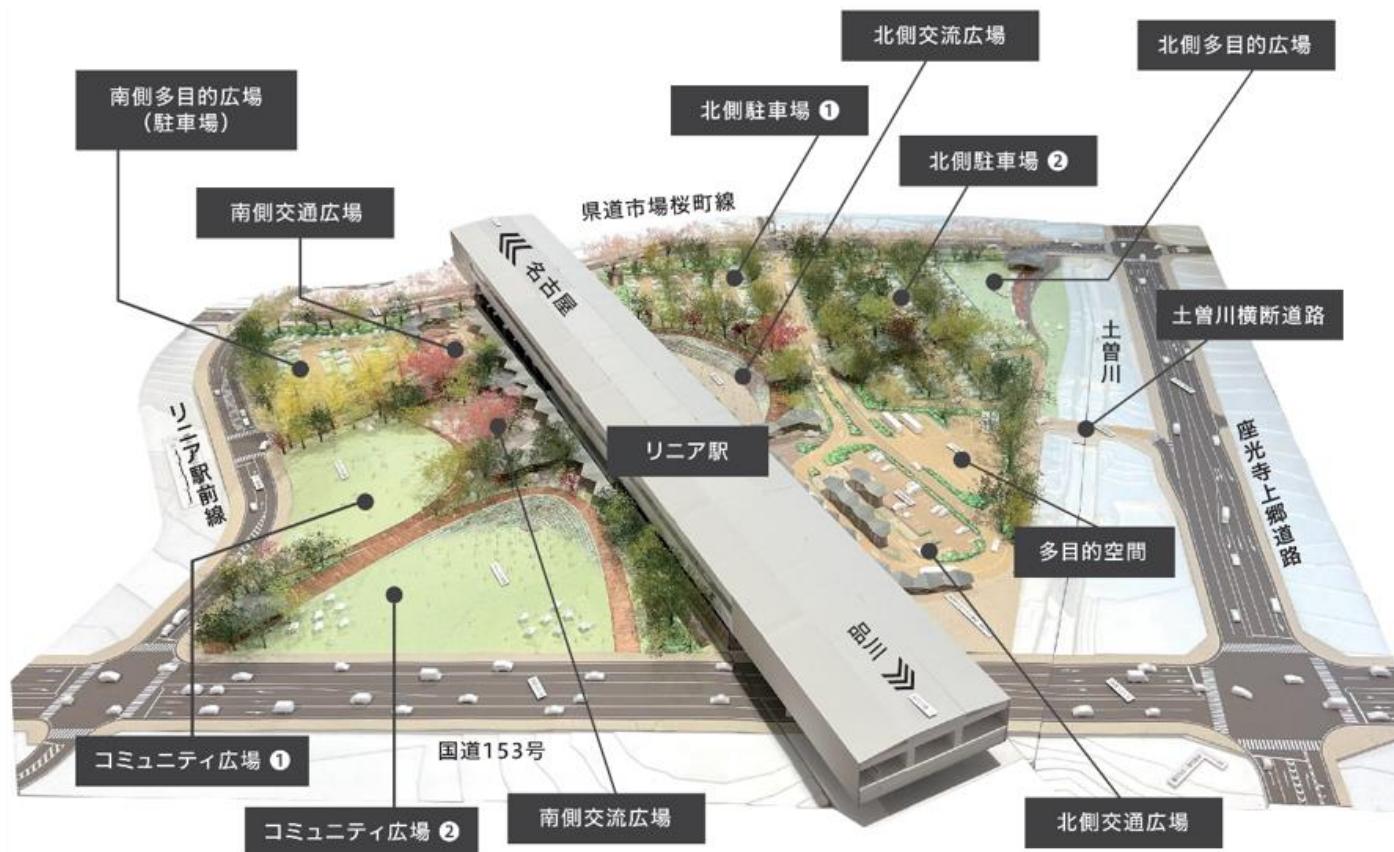
第2部 午後 7 時 30 分～午後 8 時 30 分

3. ワークショップ
4. 閉会

【配布資料】

- 次第
- 資料 1 「飯田・リニア駅前広場の整備方針について」
- 資料 2 「飯田・リニア駅前広場プラットフォームについて」
- アンケート（閉会后、出口にて回収いたします）

飯田・リニア駅前広場の整備方針について



※駅舎の形状・デザインは、今後JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

これまでの検討経過

- ・ 2014年 リニア駅前空間の整備コンセプトの検討開始
- ・ 2015年 リニア駅周辺整備基本構想策定
- ・ 2017年 リニア駅周辺整備基本計画策定
- ・ 2019年 基本設計の成果として
『飯田・リニア駅前空間デザインノート』発行
- ・ 2022年 リニア駅前空間にかかわる実施設計公表（土木関係）



『飯田・リニア駅前空間デザインノート2024』の発行



整備方針

リニア駅前空間の考え方

リニア駅前空間は、次の基本理念と整備コンセプトをもとに設計されています。

リニア駅周辺整備区域が目指す姿（基本的な理念 | 基本構想より）

ローカル

グローバル

ゲートウェイ

信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口

整備コンセプト（基本計画より）

機能的でコンパクトな駅空間

高度なトランジットハブの形成により

スムーズな乗換えを実現

信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

来訪者へのおもてなしを実現

自然との調和を目指した駅空間

豊かな自然環境に配慮し

環境モデル都市飯田を実現

地域と一体化した駅空間

地域の一体化を実現

設計方針

- ◆ アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間
- ◆ 住民や来訪者の居場所となる駅前空間
- ◆ 伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間
- ◆ 人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間
- ◆ 時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間

結いの広場 ～リニア駅前空間の考え方～

（飯田・リニア駅前空間デザインノートより）

リニア駅前空間は、地域の自然や歴史、文化を感じながら、新たな交流と活力を育むことができる場所、南信州の風景と暮らしをつなぐやわらかな結び目「結いの広場」をコンセプトに掲げています。



平面図及び機能

01 リニア駅

02 リニア駅とアクセス

03 北側交通広場

04 南側交通広場

05 多目的空間と次世代モビリティ

06 駐車場エリア

07 北側交流広場

08 南側交流広場



09 コミュニティ広場①②

10 多目的広場

11 高架下空間

12 グリーンインフラ

13 ピークシフト

14 水引ラインと緑化駐車場

15 大屋根

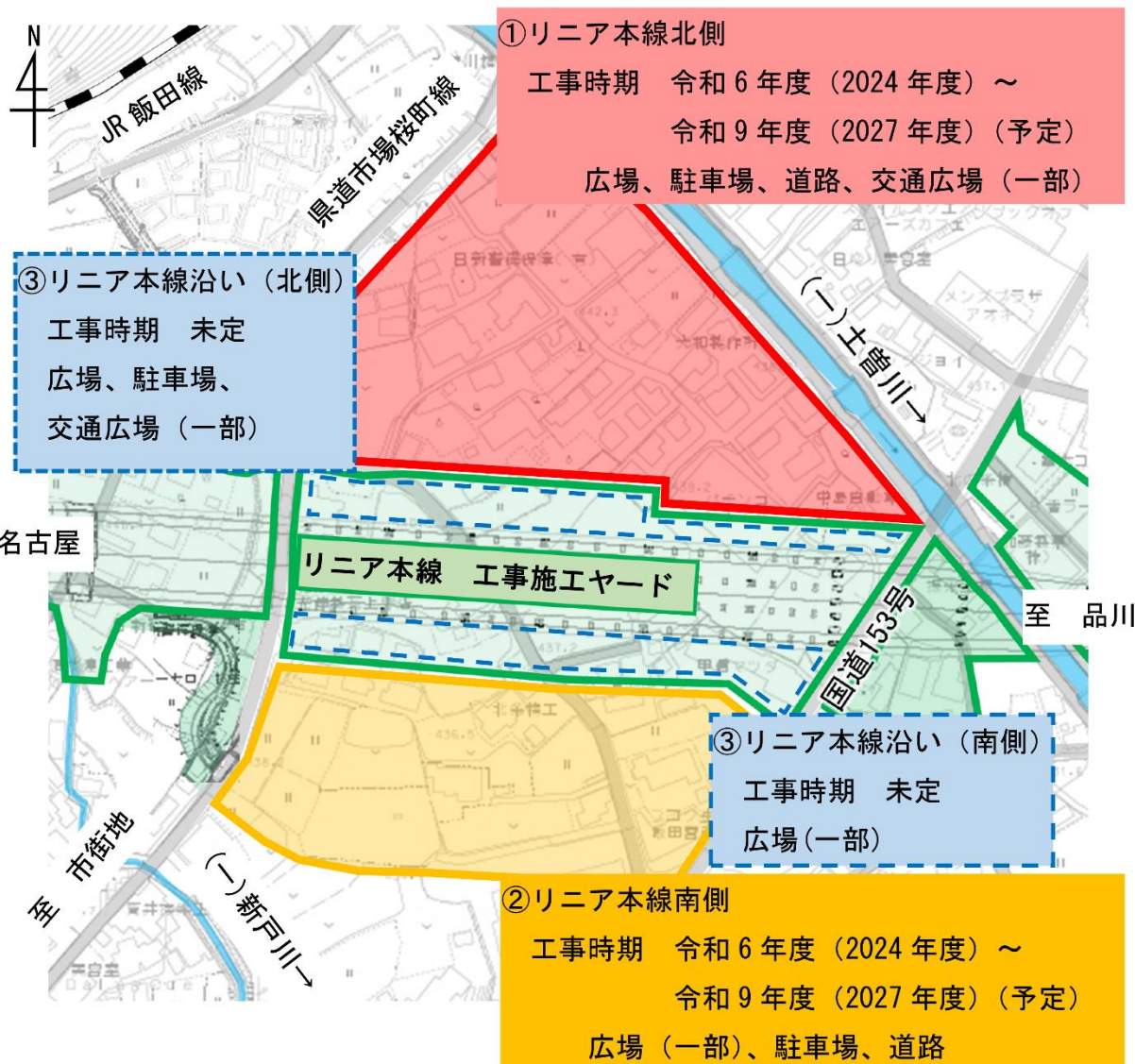
16 ゼロカーボン

17 景観

※駅舎・駅入出場口については、JR東海提供資料を参考に飯田市にて加筆しています。

※横断歩道等の路面標示については、公安委員会の許可を得たものではありません。

今後の予定について



○リニア駅前広場はリニア開業の遅れに伴い、リニア本線沿いの工事範囲を避ける形で、2028年の部分供用開始を予定しています。

○リニア本線沿いの整備については、リニア本線工事の進捗に併せて、工事時期を検討していきます。

工 事 時 期	2024 令和6年度	2025 令和7年度	2026 令和8年度	2027 令和9年度	2028 令和10年度	2029以降 令和11年度以降
①リニア本線北側 工事時期 広場、駐車場、道路、 交通広場（一部）	リニア本線北側				部分 供用 開始 （予定）	
②リニア本線南側 工事時期 広場（一部）、駐車場、道路	リニア本線南側					
③リニア本線沿い 工事時期 北側 広場、駐車場、 交通広場（一部） 南側 広場（一部）					リニア本線工事の進捗に 併せ、工事時期を検討 していきます	

I. UR都市機構の紹介

都市再生

- ・国際競争力と都市の魅力を高める都市再生の推進
- ・地域経済の活性化やコンパクトシティの実現
- ・防災性向上による安全・安心なまちづくり



大手町地区周辺(東京都千代田区)

賃貸住宅

- ・多様な世帯が安心・安全に暮らし続けられる住まいの実現
- ・持続可能で活力ある地域・まちづくりの推進
- ・賃貸住宅ストックの価値向上



ヌーヴェル赤羽台(東京都北区)

災害復興

- ・大規模災害からの復旧・復興の支援
(阪神・淡路大震災以降に培ってきた復旧・復興の経験を生かし、
東日本大震災や熊本地震等の大規模災害からの復旧・復興を全力で支援)



高田地区(岩手県陸前高田市)
東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2018応募作品「家路」

長野県が進める「未来に続く魅力あるまちづくりの実現」に向け、
長野県とURは「まちづくり支援に係る包括連携に関する協定」を締結！

○長野県と連携し、県内市町村のまちづくり支援を実施
⇒状況に応じ、URによる県内市町村のまちづくり支援を実施。

広域型UDCは
全国初！

○公・民・学連携によるまちづくり支援のプラットフォーム
「アーバンデザインセンター（信州地域デザインセンター※UDC信州）」の設立。
⇒運営体制の検討支援（設置検討委員会への委員出席によるアドバイス、資料作成等）
⇒UDC信州に構成団体として参画し、県内市町村のまちづくり支援を実施。

○長野県内の市町村等におけるまちづくりに携わる人材の育成支援
⇒専門家の派遣等により、講演会やワークショップ等の開催支援を実施。



まちづくり支援に係る包括連携に関する協定の締結（平成30年5月18日）



UDC信州開所式テープカットの様子（令和元年8月7日）

2. 最近のまちづくりの潮流

市街地整備をめぐる国の動き（→URの中期計画）

市街地整備2.0（R2.12 国交省市街地整備課）

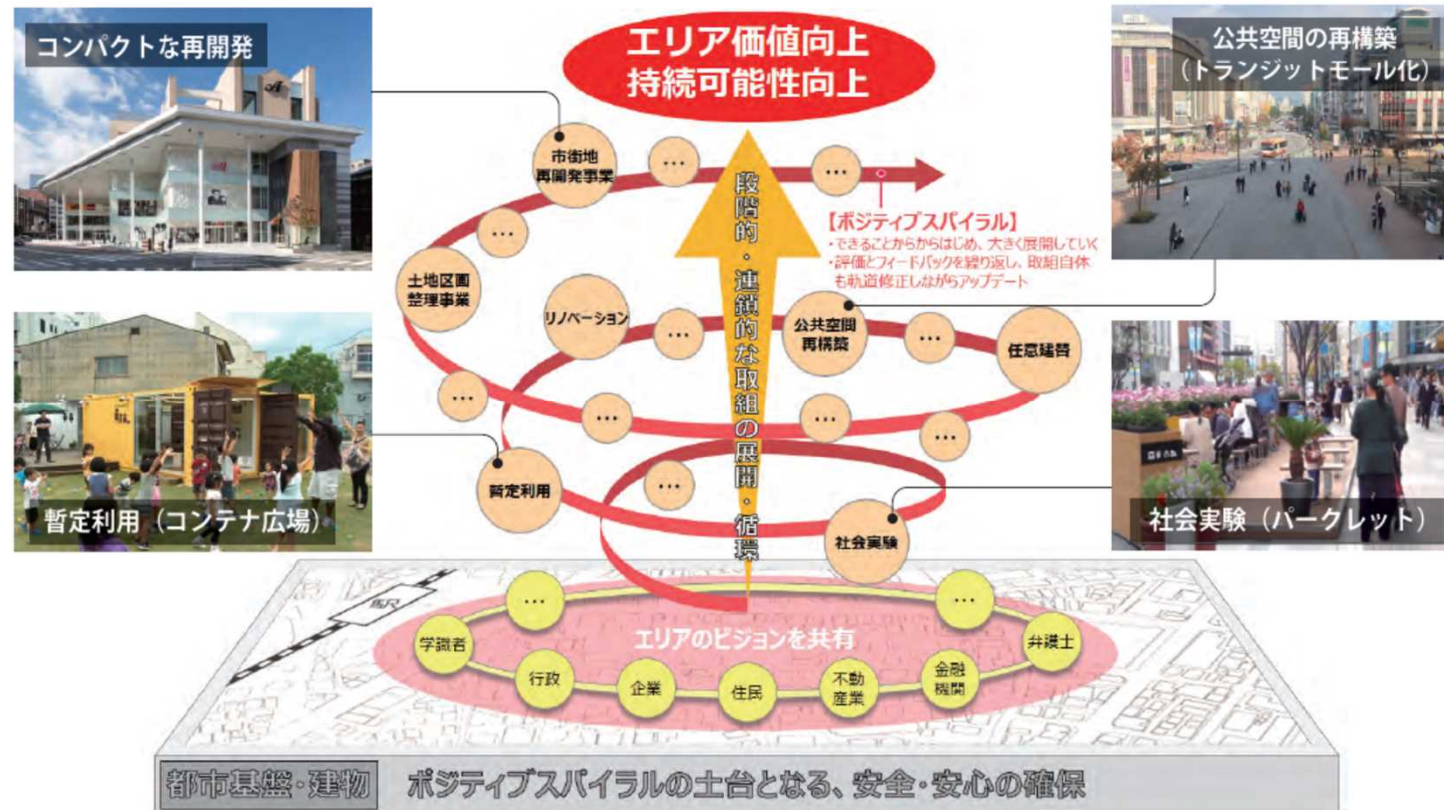
これまでの市街地整備の進め方

行政が中心となった公共空間の確保・宅地の整形化・建物の不燃共同化を大規模に志向した開発



今後求められる市街地整備の進め方

「公民連携」で「ビジョンを共有」し、「多様な手法・取組」を組み合わせて、「エリアの価値と持続可能性を高める更新」



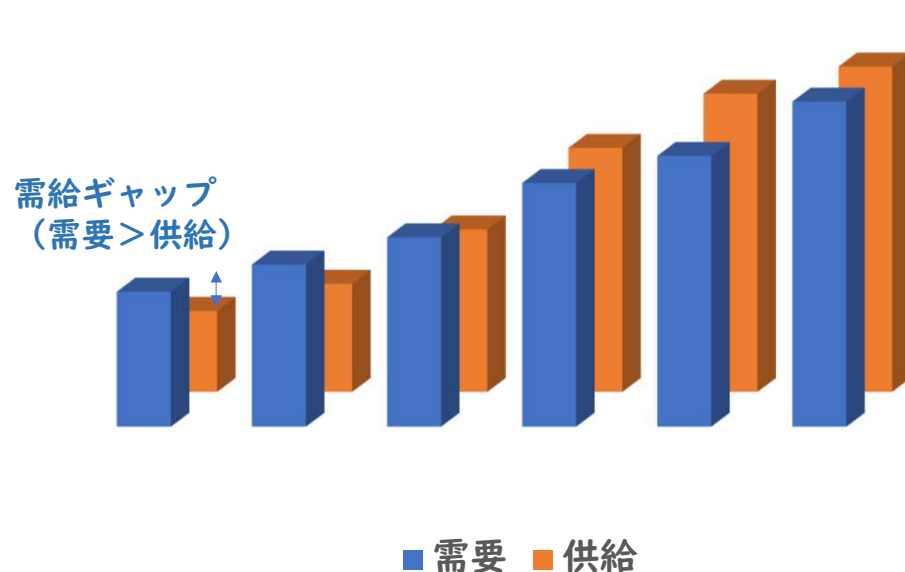
（出典：国土交通省「市街地整備2.0」）

第五期中期計画（R6年度～R10年度）

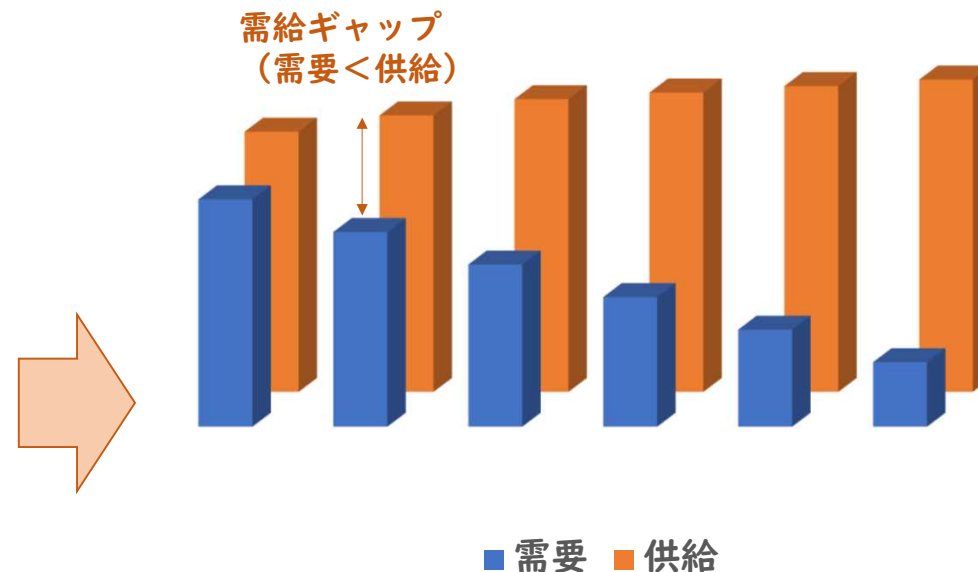
- ・観光・産業・雇用・子育て・福祉・環境等（中略）広域的な視点からまちづくりを推進
- ・地域経済の好循環につながる担い手の育成・体制構築等に係るコーディネートを実施

なぜ公民連携の発想が必要なのか（社会構造の変化）

これまで（人口＝需要増加）



これから（人口＝需要減少）



商品でもサービスでも、先に作っておけば、**いずれ需要が追いついた**（足りなくならないよう、むしろ先に作ることが求められた）

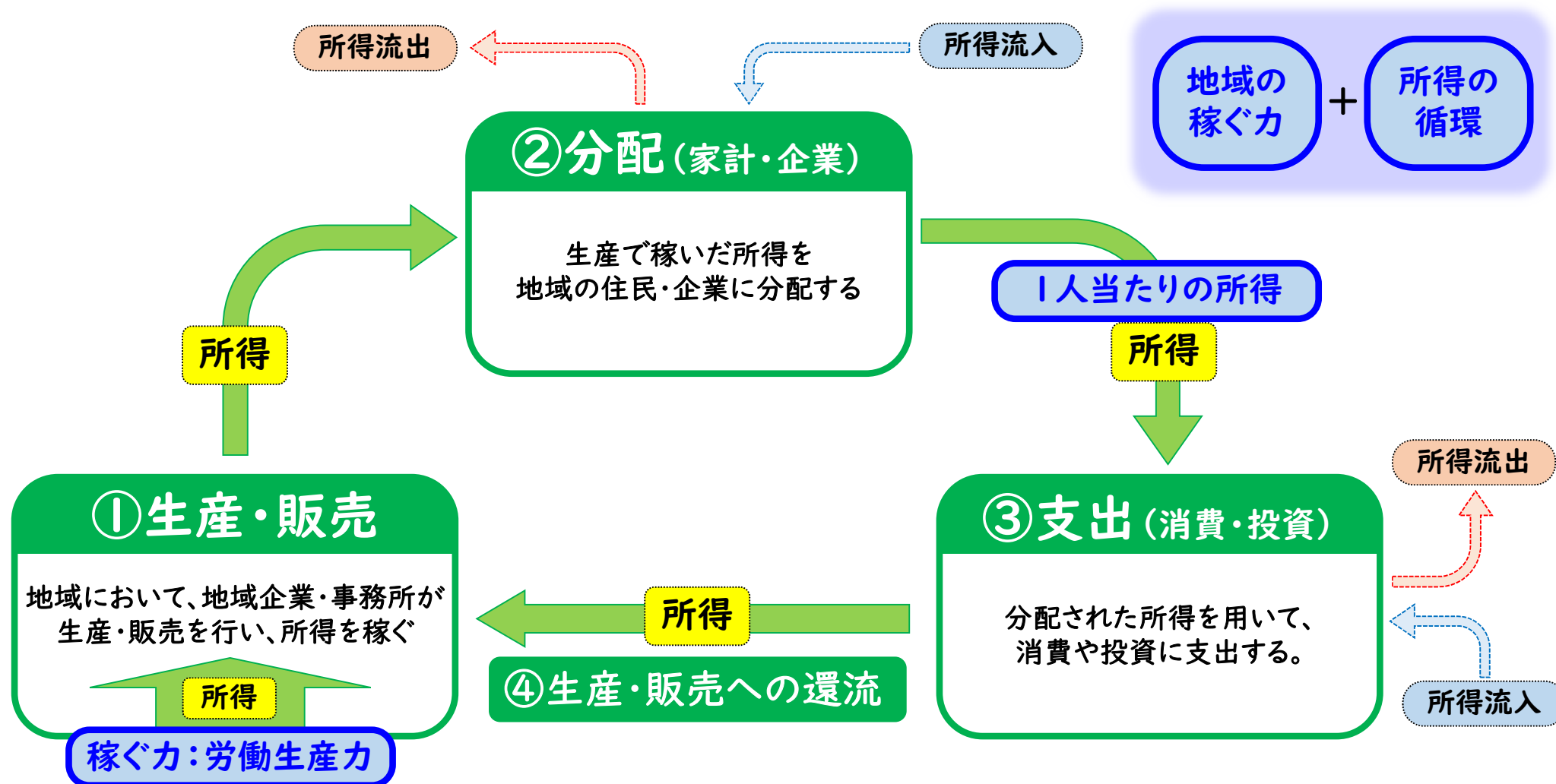
需要が減っていくので、**作っても余る可能性が高まった**（余ったものは、時間が経つほど余り続ける）

需要と供給の関係は、商品や財に限らない。公共によるインフラやサービスも同様。
（さらに公共では、人口減少により税収（収入）が減るという要因もある）

なぜ公民連携の発想が必要なのか（地域経済循環）

地方都市の再生に向けては、税収の減少や経済活動の縮小という課題に対して、地域内で経済を循環させる（地域資源の活用・付加価値増により、富を域外に流出させることなく、地域内の収入を増やし地域に再投資する）必要がある。

地域経済循環構造



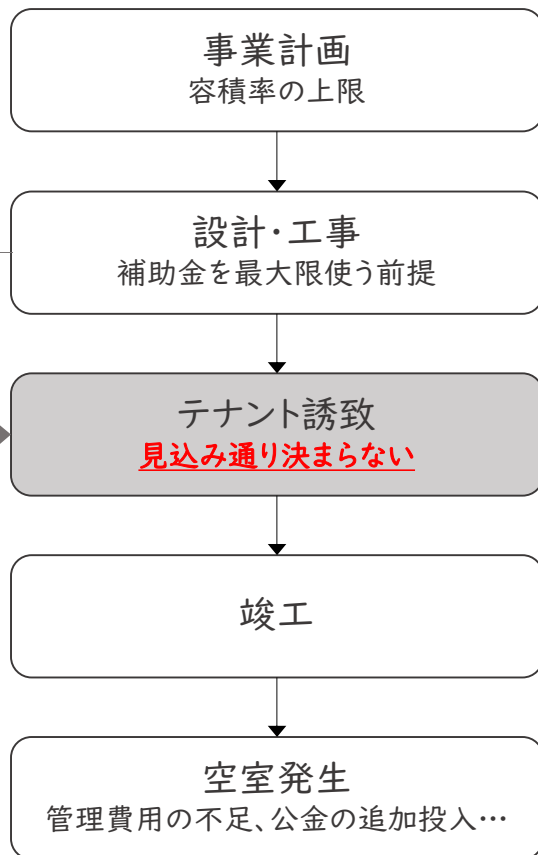
なぜ公民連携の発想が必要なのか（プロジェクトの例）

公民連携まちづくりとは・・・

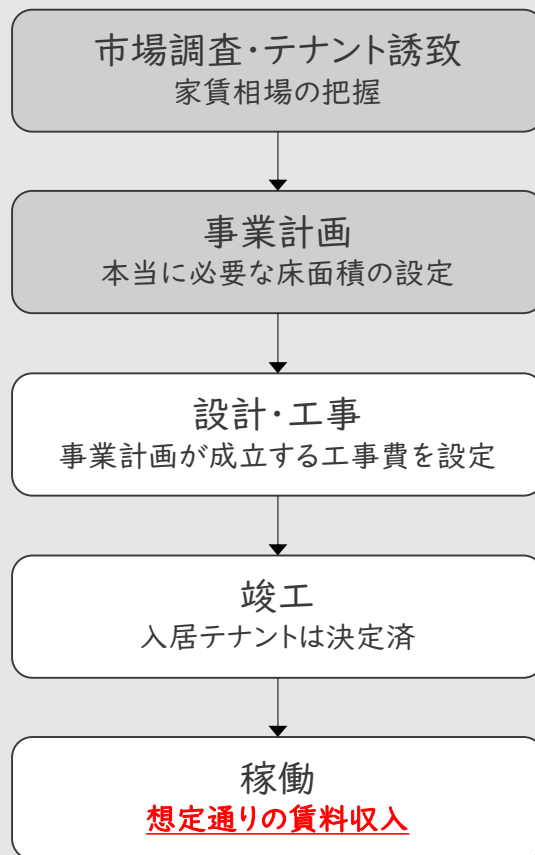
民間主導による補助金に依存しない、取り組みを、行政が後押しすることで、補助金や行政に過度に依存しない、**民間主体の「稼ぐまち（自立した民間経済活動の促進）」の実現**を目指すまちづくり。

公共主導のプロジェクト

（かかったコストで賃料が決まる
相場と合っていない可能性）



民間主導のプロジェクト



公共性・公益性のあるプロジェクトなら、
公共は規制緩和等により支援

同じ目的を共有することが重要

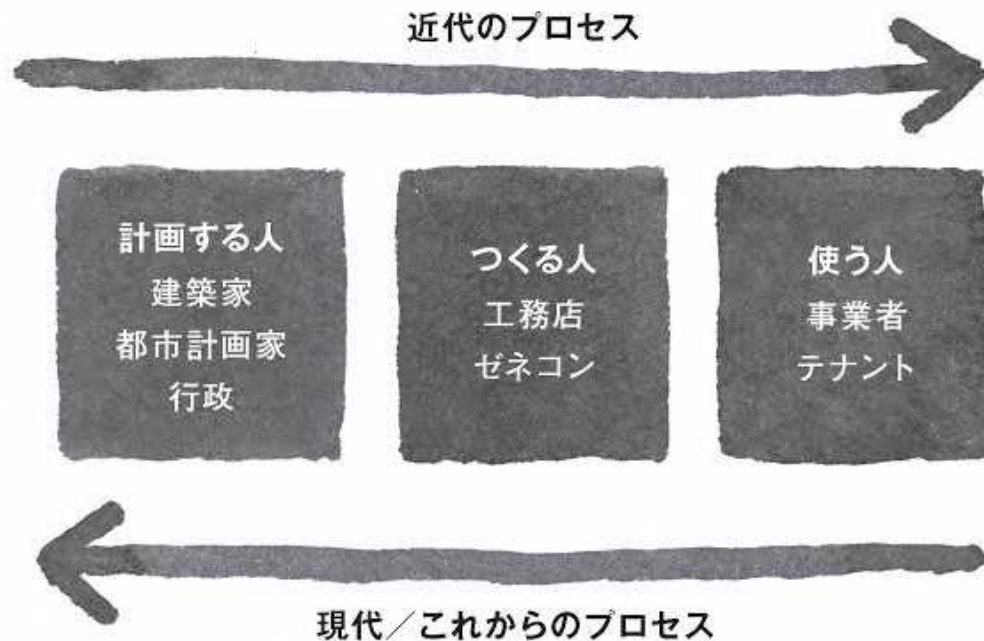
この確実性がないと資金調達できない



オガール紫波

- ・場所を「計画すること」よりも、場所を「使うこと」を先行して考えるプロセスを逆転する発想
- ・少ない投資で素早く且つ効率的に始めて、効果検証しながら、変化に順応するアプローチ

空間ができるプロセスの逆転



出典：「エリアリノベーション 変化の構造とローカライズ」

LQCアプローチ

立てた仮説に対して…、

Lighter **Q**uicker **C**heaper
～簡単に～ ～素早く～ ～安く～

できることから取組む。

「試したら仮説を見直す」を繰り返すことで、
実現性を高める。

なぜ公民連携の発想が必要なのか（プロセスのデザイン）

公民によるビジョンの共有
(エリアの将来像、ゴールイメージ、取組み仮説…)

民間

公共

仮説検証
トライ&エラーによる
ステップアップ

ビジョンに基づく
小さなチャレンジ
(できることから)

支援
(ビジョンの政策的
位置づけ・規制緩和等)

持続可能な体制構築
(エリアプラットフォーム等)

民間による自走

伴走支援

より上位の行政計画
への位置づけ
支援制度の確立
他エリアへの展開…

最近のまちづくりの潮流（全体像）

地方都市（域内）

住民

投資・寄付

地域プレイヤー

地域に根差し、直面する各社会課題（福祉、雇用、観光等々）を解決するために、実践しているヒトや団体

地域を変える人

その地域の本質的な課題を捉え、地域を変えようとするマインドをもつヒトやその集団

公共的な
目的を共有

行政（自治体）

目的の共有

実践

支援

LQCアプローチ

- ① プレイスメイキング（公共空間利活用）
- ② リノベーションまちづくり

③ ソーシャルビジネスにおける新たな資金調達

投資・融資

継続的・多様な関与

④ 関係人口

周辺都市（域外）

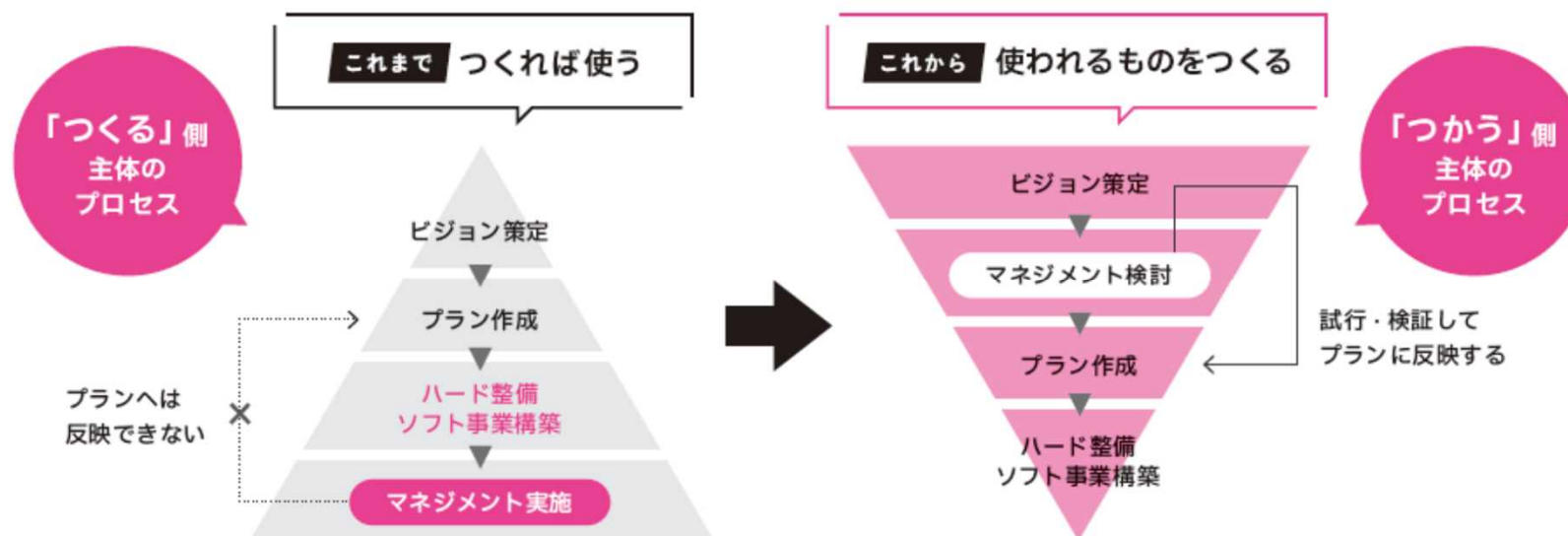
上記の視点に即した動きが各地域で顕在化している。

プレイスメイキング（公共空間利活用）

プレイスメイキングとは・・・

「つかう」視点から公共空間のあり方を考え、地域資源や場の潜在力を活かして公共空間にひとりひとりの居場所をつくる手法のひとつ。

担い手となる民間（「つかう側」）が主体となり、公共と連携して掲げるビジョンにより「つかう」イメージを共有し、マネジメントのあり方を見据えながら小さな試行や検証を重ねるのがポイント。



水辺のマルシェ（女鳥羽川）



THE SANNOMARU TERRACE（大名町通り）



みどり食堂（辰巳の御庭）



パレット広場（都市計画道路事業予定地）

■長野県松本市

「誰かに語りたくなる暮らし」を合言葉に、取組みを推進する10の界隈の活動シーン（情景）をビジョンで共有。実現のための公民の役割分担やめざす体制も明記。

長野県小諸市での取組：「まちタネひろば」の整備

- 小諸駅に隣接する都市公園「大手門公園」の未買収用地にて、高層階の民間社員寮の建設計画が浮上
- 市にて用地を買収し、イベントなどにあわせて公園の利用ルールを変えていく“新しい公園”を整備
- 「まちタネひろば」と題して、“やりたいこと、表現したいこと”を伴走型で支援するプレイスメイキング社会実験を実施

まちタネひろば 概要



施設概要

○敷地面積：約5,200㎡ ○供用開始：令和3年10月2日

プレイスメイキング社会実験

公園の整備と合わせ、市民のアイデアや想いでつくる新たな公園として、イベント利用等の利用方法によって、広場の使い方・ルールを試行しながら検討していく社会実験を実施

合同プレイスメイキング社会実験



合同プレイスメイキング社会実験
屋外映画観賞会



朝の環
早朝マルシェ



しの鉄道 Train&Bus Kids
EVENT 列車おもちゃ遊び



手持ち花火大会



整備に至るまで

①整備前



②地元主婦団体とのWS



③地元高校生とのWS



④ステージづくりWS



⑤整備へ意見を反映



飯田・リニア駅前広場プラットフォームについて

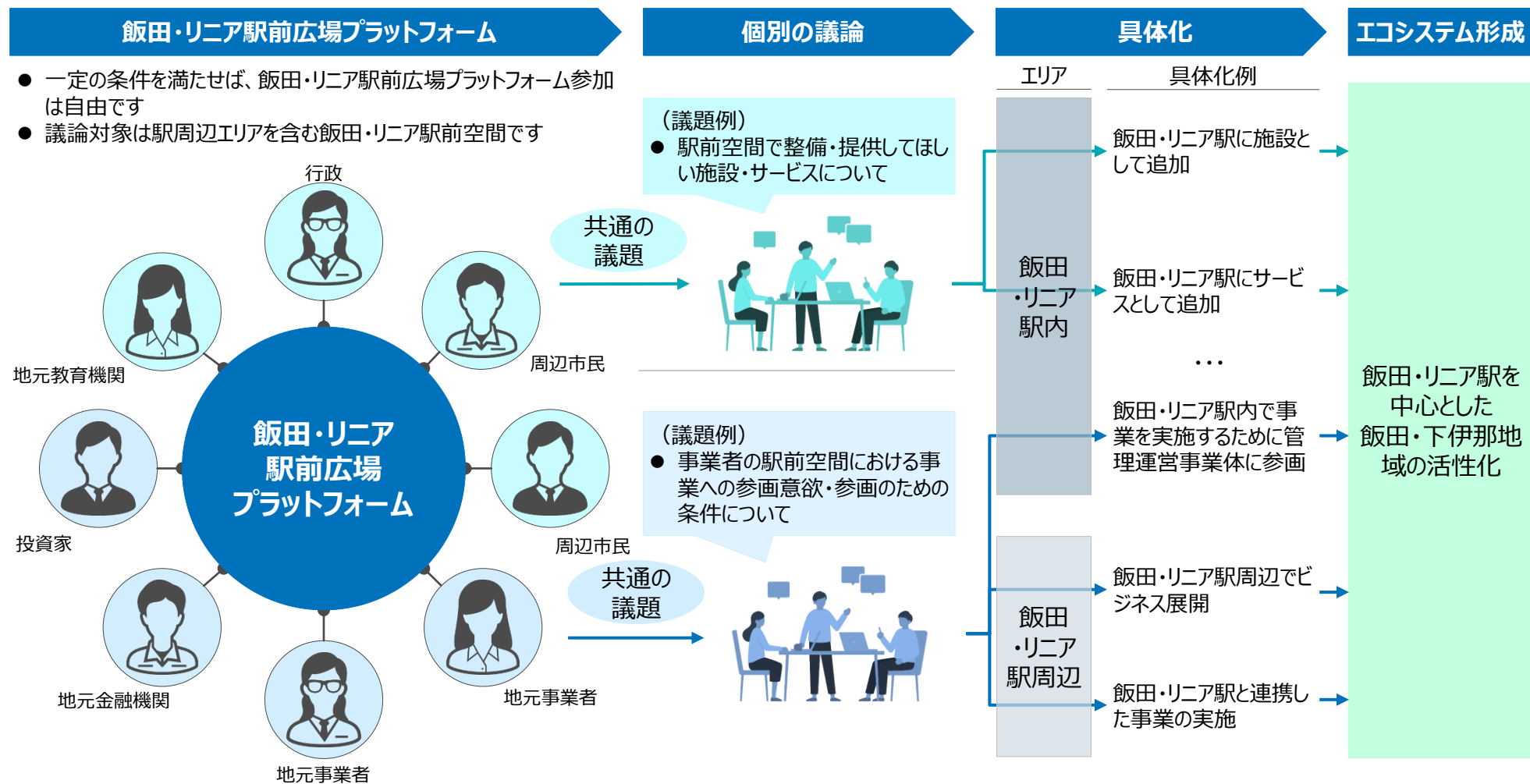
2024年10月31日

NTTデータ経営研究所 社会・環境システム戦略コンサルティングユニット

飯田・リニア駅前広場プラットフォーム

1.「飯田・リニア駅前広場プラットフォーム」とは

飯田・リニア駅前広場プラットフォームとは、市民や地元事業者等の多様な関係者が自由に参加し、飯田・リニア駅内での管理運営事業体の設立・運営に向けた議論の他、飯田・リニア駅を中心とした飯田・下伊那地域の活性化に寄与する取組の創出を促す「エコシステム」の形成を目指す組織です



飯田・リニア駅前広場プラットフォーム

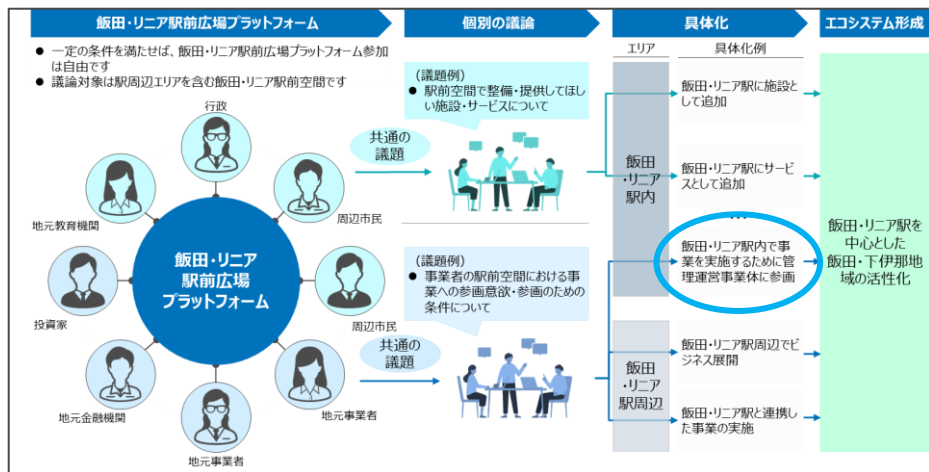
2.「飯田・リニア駅前広場プラットフォーム」と「管理運営事業体」について

「管理運営事業体」とは飯田・リニア駅内で事業を実施し、駅前広場空間の管理運営を担う事業者の集合体であり、飯田・リニア駅前広場プラットフォームにおける具体化の営みにより生み出されます

具体化における管理運営事業体の概要

- 管理運営事業体は、飯田・駅前広場プラットフォームに参加し、飯田・リニア駅内での事業実施を志向し、管理運営事業体の理念に共感した事業者から構成される組織体であり、具体化の営みによって生み出されます

管理運営事業体の位置づけ



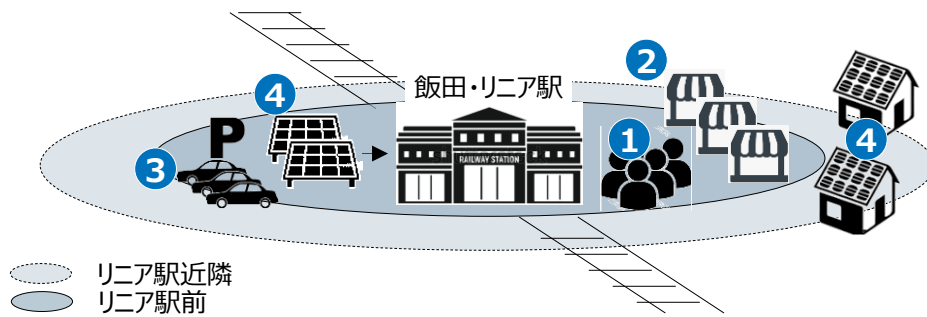
- 管理運営事業体の理念として、経済的に自立した運営が期待されており、その実現のために運営事業体は駅前+近隣のインフラ事業（貸借・駐車・エネルギー・）で基盤収益を確保しながらイベントなど収益変動が大きい地域貢献事業を行う絵姿が考えられます

管理運営事業体の事業メニュー例

- 管理運営事業体による飯田・リニア駅内での事業構成は大きく地域の賑わいに関わる地域貢献事業とインフラ事業が想定されます

【事業構成例】

- イベント等地域貢献事業**
 - 駅前広場を活用した蚤の市等イベント事業
- 賃貸借事業**
 - テナント企業への賃貸借事業
- 駐車場事業**
 - 駅前駐車場を用いたパーキング事業
- エネルギー事業**
 - 周辺建物・土地等を活用した太陽光発電事業
 - 駅前施設並びに周辺建物への小売電気事業 etc...



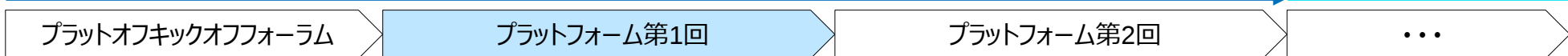
飯田・リニア駅前広場プラットフォーム

3.「飯田・リニア駅前広場プラットフォーム」の今後のスケジュールについて

飯田・リニア駅前広場プラットフォームは本イベント後年度内2回、来年度3~4回程度の実施を想定しており、第1回は11月25日(月)15:00~16:30(エス・バードB棟203・204会議室)に実施します

2024年度

2025年度



- 10/31 (木) 18:00~20:30
- エスバードAホール

- 11月25日(月)15:00~16:30
- エスバードB棟203・204会議室

- 2~3月ころ実施を想定
- 場所未定

2025年度3~4回
程度の実施を想定

アジェンダ (例)

- 事務連絡・開会挨拶
・リニア駅現況の共有
- トークセッション
- ワークショップ

アジェンダ (例)

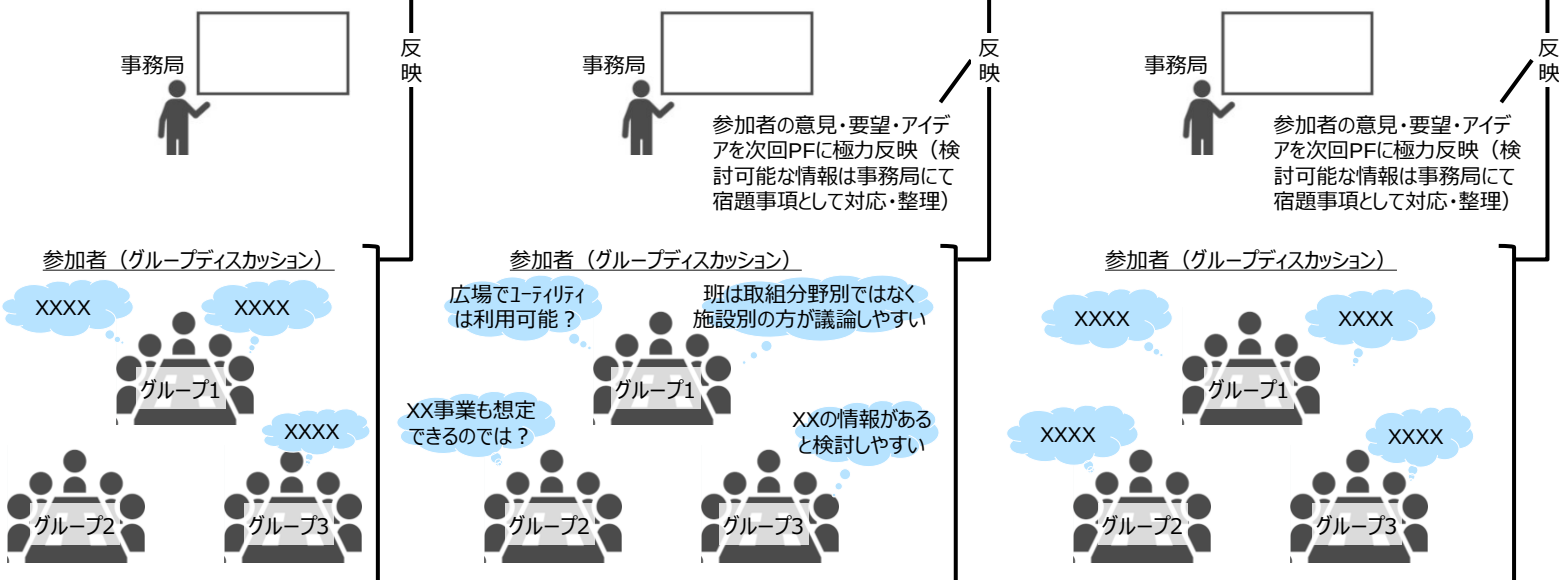
- PFの概要説明
- グループディスカッション
(広場の段階利用アイデア出し)
- ディスカッションのまとめ
- 次回PFの案内

アジェンダ (例)

- 前回PFの振り返り&宿題事項の情報共有
- グループディスカッション
(広場の段階利用アイデア出し)
- ディスカッションのまとめ
- 次回PFの案内

アジェンダ (例)

- XXXX
- XXXX
- XXXX
- XXXX



NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所